

2016年9月12日
在リオデジャネイロ日本国総領事館

リオ州の安全情報(2016年38号)

外国人を狙った昏睡強盗の発生

連邦警察の発表によれば、10日(土)午前1時頃、当地を訪れた観光客(オーストラリア人)が昏睡強盗の被害に遭っています。

1 状況

- (1) 10日(土)午前1時頃、オーストラリア人観光客が、リオ市内のレストランにおいて、偶々出会ったブラジル人にしつこく勧められ、カイピリーニャ(カシャーサ(砂糖黍の蒸留酒)で作られたカクテル)を数杯飲んだところ、意識を失いました。
- (2) 同日午前9時ころ、被害者が市内の病院で目を覚ましたところ、いくつかの携行品、現金がなくなっていることに気付きました(被害者の身体に特に暴行等の形跡はなし)。

2 当館からのアドバイス

- (1) 他人から勧められた食べ物、飲み物はたとえそれが未開封な状態に見えても不用意に口にしないことが大切です。
- (2) レストラン、バー等で知り合った人と一緒に食事をしていて、トイレで席を離れた隙に睡眠薬を入れられたというケースもあります。
- (3) 当地において、上記のような手口は「Boa noite Cinderella(おやすみ、シンデレラ)」との通称で知られています。また、使用される薬は強力で、後遺症が残る場合もあり、十分な注意が必要です。